特集 錦江町から県ナンバーワン牛誕生
試行錯誤の先につかんだ、グランドチャンピオン


2


3



4



5

❶家族での集合写真。妻りえさんのご両親も応援に駆けつけ、家族みんなで受賞の喜びを分かち合いました。❷出品者と補助者１名のみが入れる審査場。補助者は、一番良い姿勢で牛が立つよう調整し、審査員にアピールします。❸審査会場を多くの観客が取り囲み、審査結果を待ちます。❹記念撮影の間も姿勢を崩さないなかはら号。❺26年前の広報たしろの表紙。

1



第75回鹿児島県畜産共進会

＼県ナンバーワン／ グランドチャンピオン受賞

西元裕樹さん なかはら号

10月3日、姶良中央家畜市場で開催された第75回鹿児島県畜産共進会。県内各地区から選出された73頭が出場し、5部門で審査が行われました。

錦江町からは、西元裕樹さんが育てる牛が3頭出場。「若雌2区」部門に2頭、「繁殖雌牛群区」部門に1頭が出品されました。

その中で、西元さんの「なかはら号」が県畜産共進会の最高賞であるグランドチャンピオンに輝きました。さらに、農林水産大臣賞をはじめ、山中貞則賞、萩原三笠杯など数々の賞を受賞するという素晴らしい成績を収めました。

本町の牛がグランドチャンピオン賞を受賞するのは、町合併後初めての快挙。合併前の平成12年に旧田代町で上久保文夫さんの「いちふじ8号」が受賞して以来、26年の時を経て再び本町の牛が最高賞に輝きました。県内各地の生産者が丹精込めて育てた牛が競い合う中での受賞は、決して簡単に成し遂げられるものではありません。今回の栄誉は、生産者の努力が高く評価された証しであり、本町の畜産にとっても大きな誇りとなるものです。

この快挙の裏には、日々牛と向き合う生産者の皆さんの努力と、畜産にかける思いがあります。今回の特集では、受賞者へのインタビューを通して、受賞の喜びや飼育へのこだわりに迫ります。また、来年開催される「全国和牛能力共進会」に向けた取組や、安定した畜産経営を目指す工夫など、本町の畜産を支える生産者の姿と、これからの展望を紹介します。



牛本来の良さを引き出す——

試行錯誤の先につかんだ、グランドチャンピオン。

今回、県畜産共進会（以下、県共）で最高賞であるグランドチャンピオンを受賞した西元裕樹さんにお話を伺いました。

——受賞おめでとうございます。反響はいかがですか？

ありがたいことに、新聞にも大きく取り上げていただき、多くの方からお祝いの連絡をいただきました。また、視察に訪れたいというお話もいただいており、今回の受賞の大きさと、その反響の広がりを実感しています。

——今回で4回目の県共出場だと伺いました。一昨年は最終審査に残ることさえできず、悔しい思いをされたそうですね。

あの時に「自分の牛づくりはずれている、方向性が違うのかもしれない」と痛感しました。これまでは、共進会用の牛を作ることにこだわっていましたが、一昨年の県共以来、それを一切やめました。本来の牛の良さを引き出すことを意識した牛づくりに、大きくシフトチェンジしました。

——それを経て、昨年の県共では成雌区で二席という結果につながったのですね。

二席という昨年の結果は、どちらかというと悔しい気持ちの方が大きかったですね。特に、昨年は先輩が一席を取っていたので「自分も一席を」という思いが強くなりました。

——まさに有言実行ですね。今年は県共に向けて、どのような取組をされましたか？

特に、県共のために何か特別なことをしたというわけではなく、牛が確実に年一産できるよう管理を徹底した結果、県共でグランドチャンピオンをいただけたという感じです。繋牧（牛をロープで繋ぎ、立たせた状態にしておくこと）や刷毛がけも行いましたが、牛の体調を見て、元気がないときには無理をさせないよう気を付けました。

——グランドチャンピオンが決まった瞬間、どんなことを考えていましたか？

嬉しさより、無事に終わったという安堵の気持ちの方が大きくて、実感がわくまで時間がかかりました。グランドチャンピオン受賞の嬉しさより、支えてくださった皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。

——周りの支えが大きかったのですね。

田代の若い畜産農家の仲間が「当日はトラックどうする？」「何時に来ればいい？」と、こちらがお願いする前に声をかけてくれて、本当にありがたかったです。だから、自分一人でとったグランドチャンピオンではなく、団体で勝ち取った賞です。もちろん、家族にも感謝しています。父も大事な戦力なので、元気なうちはまだまだ一緒に働いてもらいたいです。妻も、餌やりや牛舎の掃除など手伝ってくれて、本当に感謝です。

——いよいよ、来年は全国和牛能力共進会（以下、全共）ですね。

今回、グランドチャンピオンをとったからといって、全共に行けるわけではありません。また、来年の予選から、皆さんと同じくゼロからのスタートです。チャンスがあれば、ぜひ挑戦したいですね。

——最後に、今後の抱負を教えてください。

安定した経営第一で続けていきます。牛の仕事が好きなので。これからも、いい牛を作っていきたいです。

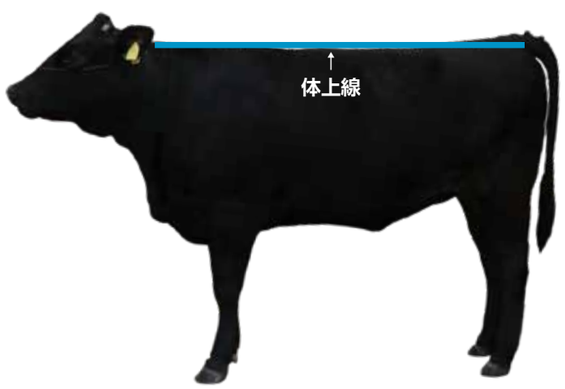




なかはら号　評価のポイント

畜産技師に聞きました！

牛は、横から見て長方形に近い形が理想とされています。なかはら号は、体上線の強さが素晴らしく、月齢に応じた発育で、大きすぎず小さすぎず、バランスが整っているところが評価のポイントです。体上線の強さは遺伝的な要素も大きいですが、日々の刷毛がけや繋牧を通して、姿勢や脂肪の付き方を調整してきたことも、今回の評価につながったと感じています。





産業建設課 経済チーム
小鷹 敬志郎 畜産技師

＼いよいよ来年開催／

和牛の祭典 2027
全国和牛能力共進会 北海道大会



第13回全共北海道大会
マスコットキャラクター
「和ぎゅリー」



5年に一度開催される「全国和牛能力共進会（以下、全共）」。和牛オリンピックとも呼ばれ、厳しい審査を勝ち抜いた和牛やその関係者が全国から一堂に会する大会です。

前回大会は2022年に鹿児島県で開催され、鹿児島県が総合優勝を果たしました。各地で生産者が丹精込めて育てた和牛が、その改良の成果を競い合う大舞台です。

そして、いよいよ来年は全共の開催年。2027年8月26日から30日まで、北海道を舞台に開催されます。地域の畜産技術や和牛の魅力を全国に発信する大会として、期待が高まります。

全国への挑戦が始まる

全共の審査は、雄牛、雌牛の姿・形を審査する「種牛の部」と肉質等を審査する「肉牛の部」、また、和牛を飼養する高校・農業大学校からの出品を対象とした特別区も設けられます。

県代表の出品牛の選抜は、これから行われます。鹿児島県から出場できるのは、種牛の部でわずか14頭。限られた出場枠を目指し、来年3月から県内各地で予選会が行われ、代表の座を懸けた熱い戦いが繰り広げられます。

もちろん、錦江町の牛が県代表に選ばれる可能性もあります。今後も選抜の動きや町内の生産者の取り組みなど、全共に関する情報を広報誌で随時お届けしていきます。ぜひご注目ください。

全共への審査会のスケジュール

- 令和9年3月末 町審査会 in 錦江町内審査場
- 4月20日 地区一次審査会 in 肝属中央家畜市場
- 6月11日 地区二次審査会 in 肝属中央家畜市場
- 7月2日～3日 最終予選会 in 姶良中央家畜市場
- 8月26日～30日 全国和牛能力共進会 in 北海道

全共の審査区分と県からの出場頭数

審査区分	出場条件	鹿児島県からの出場頭数
若雌1区	生後14～17か月未満の雌牛	2頭
若雌2区	生後17～20か月未満の雌牛	2頭
繁殖雌牛群	3産以上している雌牛3頭1組	3頭1組
高等登録群	母牛・娘牛・孫牛の3頭1組	3頭1組
総合評価群（種牛群）	同じ種雄牛の雌牛4頭1組	4頭1組

畜産技師に聞きました！

出品区の一部では、出品牛の選定が始まっているところがあります。長い道のりですが、「錦江町から2頭以上！」そして、大根占・田代の両地区からの出品を目指します！！農家の皆さんと連携しながら、出品できるように頑張ります！



産業振興課 経済チーム
水流 賢一 畜産技師

モウ飼って、ずっと儲かる畜産へ



本町では、令和6年度から中心経営体（担い手農家）を対象に毎年120頭の牛の「代謝プロファイルテスト」を実施しています。

この代謝プロファイルテストは、血液検査や体型評価を通じて牛の栄養状態や健康、代謝のバランスを客観的に診断する手法です。人間でいう「人間ドック」に相当します。

血液検査の結果から、牛に与えている飼料の栄養バランスや、牛一頭一頭、牛群全体の栄養状態を把握することができます。その結果を基に、農家ごとの問題点を明らかにし、具体的な改善策を提案することで、農家の皆さんも飼養管理の改善による効果を実感されています。

併せて、夏草の新品種作物「ルジグラス」栽培の取り組みも行っています。この品種は、栄養価が高く嗜好性が非常に高い特徴を持っており、令和7年に40haで栽培実証し、令和8年は110haが作付けされ、現在、収穫中です。


▲ルジグラス

また、令和5年度から町内産優良牛導入事業を実施し、優れた子牛を域内に残す取り組みも行っています。

鹿児島県畜産共進会では、令和6年度以降、毎年、出品区で最優秀賞首席を獲得しています。日々の飼養管理の改善や優良牛の導入など、町と農家の皆さんが取り組んできた成果が表れているのかもしれません。

「代謝プロファイルテスト」による成果（一例）

診断結果	牛群全体の栄養不足	栄養過多
▼	▼	▼
改善内容	粗飼料給与量を増量	農耕飼料を減量調整
▼	▼	▼
成果	大きくて丈夫な子牛 治療費の減少	生産コストの軽減

代謝プロファイルテストの結果を蓄積し、繁殖牛管理をマニュアル化して、肉用牛農家の皆さんの指導に活かし、みなさんにモウ飼っていただきたいです。

産業建設課 経済チーム
上大薗 樹 畜産技師







今年も錦江町秋まつりで
「錦江町産牛」を販売します！


原口勉さん家で生まれた「心愛６号」


木下晨兵さん家で生まれた「若秀華号」

今年の錦江町秋まつりは 11 月 15 日！

例年、秋まつりで大好評の牛肉の販売。
今年は原口勉さん、木下晨兵さんの牛を販売します。


２頭がお肉になるまで育てた
根占第二肥育牛センターの皆さん

